

しんかん

秦漢金文（前 221～紀元 219） 鉄器の質が向上し石が彫りやすくなり、文字の中心は石碑に移行する。

青銅器は分銅や升などの日用品に使われるようになる。

銅鏡（前漢） 鏡銘 小篆



「重圈文銘鏡」

秦代の半両銭



「半両」の文字が見える

けんめい りょうめい
権銘と 量 銘（合わせて権量銘という）

重量の基準を示す道具として、重さは「権」という分銅、容積は「量」という升が作られた。小篆の詔文が
鑄造されている。全国に頒布された。形状・材質はさまざまなものがある。

「権銘」 秦（前 221） 鑄銘 小篆

「秦量」



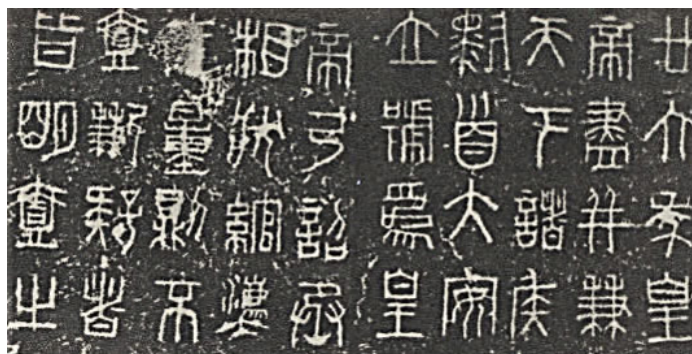
かりょう
嘉量（新）

表面に 216 字の銘がある。小篆。



かりょうめい

嘉量銘（新の金文「王莽の詔書」）



「廿六年詔 権 量 銘」 全文 40 字

天下統一と度量衡統一の事実のみを簡潔に示す。

白文（旧字体）

廿六年。皇帝盡并兼天下。諸侯黔首大安。立號爲皇帝。乃詔
丞相狀綰。灋（法）度量則。不壹歎疑者。皆明壹之。

書き下し文（新字体）

廿六年、皇帝 ことごとく天下を并兼し、諸侯黔首大いに安んず。
号を立てて皇帝と爲す。乃ち丞相 状綰に 詔して、
法度量の則、壹ならずして歎疑なる者は、皆明らかに之を壹
にせしむ。

口語訳

（始皇帝の）二十六年、皇帝はことごとく天下を統一し、諸侯
や人民は大いに安らかとなった。王号を立てて「皇帝」と称し
た。そこで丞相の 隗 状と王綰に詔し、度量衡の制度が統一さ
れず疑わしいものは、みなこれを明らかにして統一させた。

前 453 晋が韓・魏・趙に分裂し戦国時代始まる

前 390 頃 墨子没

前 359 秦 商鞅の策によりしだいに強大になる

前 259 政（後の始皇帝）生まれる

前 256 周王朝滅亡

前 246 政 13 歳で秦王に即位

前 238 政 親政を始める 始皇帝陵建設に着手
李斯 丞相

前 227 燕滅亡 秦王暗殺未遂

前 225 楚滅亡

前 221 齊滅亡 始皇帝中国統一

前 219 始皇帝二度目の巡遊で「泰山刻石」を築く
徐福仙薬を探しに旅に出る

前 214 「万里の長城」建設 この頃蒙恬始皇帝に筆を献上

前 213 「焚書令」施行

前 212 坑儒 阿房宮建設開始

前 210 始皇帝五回目の巡遊の途中死去 末子胡亥二世皇帝に

前 209 陳勝と呉広の反乱 項羽と劉邦挙兵

前 208 李斯処刑される 趙高丞相になり実権を握る

前 207 趙高クーデター 胡亥自殺させられる
三世皇帝子嬰により趙高とその一党肅清される

前 206 子嬰劉邦に降る（前漢始まる）
「鴻門の会」の後、子嬰項羽に殺され秦滅亡

前 202 劉邦「垓下の戦い」により項羽を倒し漢帝となり中国を統一

前 91 頃 司馬遷『史記』完成



始皇帝像



驪山陵 周囲 2km.高さ 76m.
の人造の丘 始皇帝の墓
造営に 30 年、約 70 万人の労
働力を費やした。



「兵馬俑坑」地下宮殿・・・1974 年井戸掘りをしていた農民が偶然発見した。



万里の長城

始皇帝（前 259～前 210）秦王時代（前 246～前 221）皇帝時代（前 221～前 210）

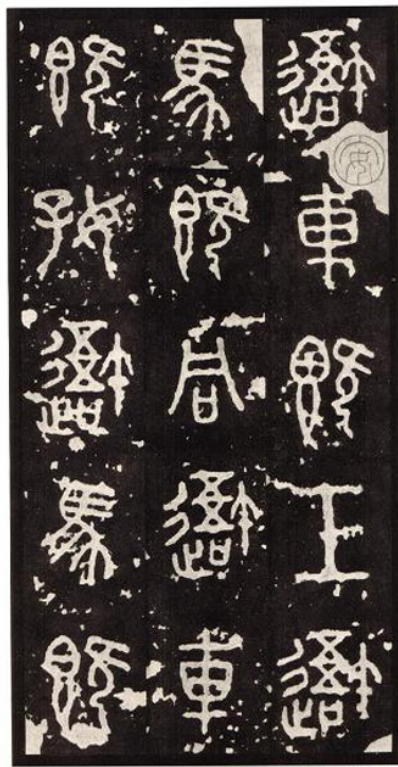
始皇帝は俗に「人類史上最強の専制君主」「悪逆非道の独裁者」「暴君中の暴君」と言われている。『史記』に始皇帝は「鼻が高く、目は切れ長で、声はやまいぬの如く、恩愛の情に欠け、虎狼のように残忍な心の持ち主」と記されている。死後四年で秦は滅亡し、20 人の息子たちは憎悪のドラマをくりひろげ、始皇帝の死の真相は病死か暗殺か不明である。始めて中国を統一した。中国史上はじめて皇帝と称した（始皇帝）自称を「朕」、王令を「詔」王命を「制」と称させた。急激な中央集権化、厳格な法治主義で民衆を虐待、民衆を苦しめた大土木工事（万里の長城、阿房宮の建設、始皇帝陵の建設、運河の建設など）。周の「封建制」に変えて「郡県制」に。貨幣の統一、度量衡の単位の統一、車の幅の統一（「軌を一にする」の故事）、漢字の統一・「書同文字」（書は文字を同じくす。小篆）、全国交通の整備。封建的な世界を法の下での合理的な支配体制をもつ近代的な国家に生まれ変わらせ、後世の統一王朝の模範となった。

せつこくぶん だいてん しょうてん
石刻文 (大篆・小篆)

せつこぶん
石鼓文 (秦・戦国時代中期)

だいてん ちゅうぶん
大篆 (籀文)

西周金文の正統の流れを受け継いだ字形と筆づかいである。



避車既工。避馬既同。避車既好。避馬既
吾が車は既に工まり、吾が馬は既に同まる。吾が車は既に好く、吾が馬は既に



原寸

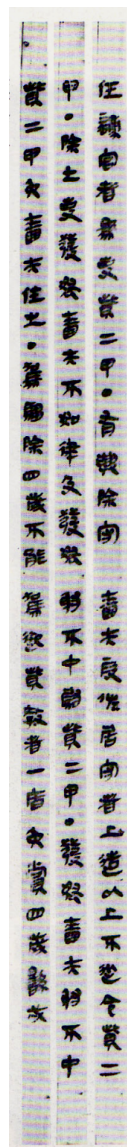
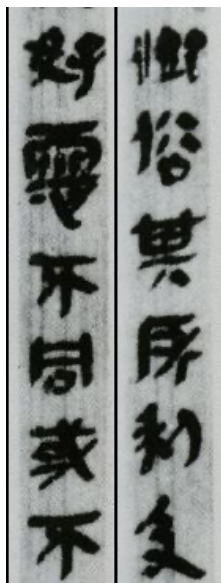
秦簡

秦代の文書用文字（通行体）

秦隸

隸変

小篆の書体の単純化、簡素化が隸書を生んだ。字形が現在の形へ変化するうちに失われてしまった多くの情報を小篆さらに甲骨文字や金文が持っている。



雲夢睡虎地竹簡（前217頃戦国時代末〜秦）

秦の八体（『説文解字』序文によると、公式書体として定められていたらしい）

大篆

小篆

刻符

虫書

摹印

署書

殳書

隸書

標準書体

割符にするす文字

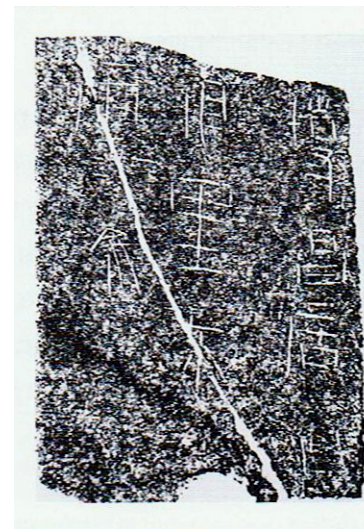
幟や旗にするす文字

印章に刻む文字

封検にするす文字

武器などに刻む文字

官吏が公文書を書くときに用いる文字



祭祀用（篆書）

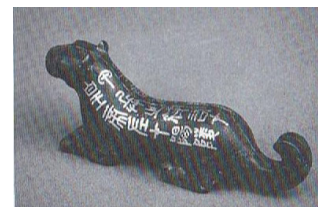
儀式用の公式書体。秦の正統を天下に知らしめるために作られ使用された。

文書用（隸書）

文書行政用の通行体。楷書の先駆。

「六国古文」（六国文字）

各国で用いられていた滅ぼされた文書用の篆書。字体の国ごとの違いはほとんどなかった。秦の文書用文字の隸書は特異な存在であった。

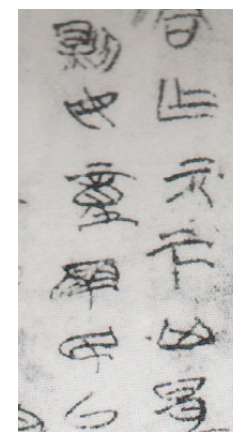


秦の割り符（虎符）

始皇帝が軍隊を動かすときに使った（青銅製）

「甲兵の符、右は皇帝に在り、左は陽陵に在り」と背中に象嵌してある。

始皇帝陵築造人夫墓誌
「博昌居此用里不更余」とある。1979年始皇帝陵の西2^{キロ}あたりで発見された。
「博昌」は県名「居此」は国家に与えた経済的損失を労働によって支払いに充てるという制度「用里」は地名「不更」は公民の爵位の一つで、全二十段階の下から三番目、「余」人物の名。



楚帛書（部分）

篆書の完成（小篆・秦篆）

たいざんこくせき
泰山刻石（秦・前219）小篆（秦篆）

李斯の文および筆とされる。大篆をもとに、それを少し改良して李斯が作ったとされる。中国史上はじめての石碑と思われる。始皇帝の偉業と秦の正統性を天下に広く知らしめるために刻された石碑。

しこうしちこくせき
始皇七刻石

えきさんこくせき
嶧山刻石（前219）村人が燃やしてしまった

たいざん
泰山刻石（前219）四種類の拓本がある

ろうやだい
琅琊台刻石（前219）字数280字

し
之罘刻石（前218）

しふようかん
之罘東觀刻石（前218）

けっせき
碣石刻石（前215）

かいけい
会稽刻石（前210）

小篆の特徴



模刻拓本

原寸

















斯
臣去疾
御史

ろうやだいこくせき
琅琊台刻石（秦・前219）



《補足》

文字の成り立ち

	甲骨文字	金文	小篆	楷書（旧字体）	楷書（書写体）
月					
馬					
生					
魚					
犬					
教					

【問題】 何という漢字か？



「右」と「左」の筆順の違いと口、工の意味



甲骨文字の特徴（落合淳思氏による）

1. 多数は三に
2. 直線化
3. 強調
4. 左行と右行。
きこう うこう
5. 一画を一刀で刻している。
6. 口語を文にした。
7. 墨書の線は柳葉状で柔らかい線である。
8. 縦書き。
9. 鎖骨のような細長い骨には、下から順に書くことが多い。

「字体」と「書体」。象形文字、指事文字、会意文字、形声文字。初文しよぶんと繁文はんぶん。合文ごうぶん。

貞人数は百人を超え、スタイルは10～15種類ほどある。（松丸道雄氏による）

誰が刻したか・・・王か貞人か書人か。二系統の甲骨文字製作者集団があったと思われる。

訂正・・・甲骨文字はすべて解読可能になっている。

殷前期（二里岡文化）紀元前 16～前 13 世紀

殷後期（殷墟文化）紀元前 13～前 11 世紀

追加

- ・ 驗辞の次に「記事」(月次とト占地)
- ・ 占辞は繇辞ともいう。
- ・ 甲骨文の書式の前辞には「干支・トして・某・貞う」という定型がある。
- ・ 甲骨占ト
- ・ 甲骨文字の名称
 - 「甲骨文」、「甲骨文字」、「亀甲 獸 骨文字」、「契文」(刻した文字という意)、
 - 「卜文」「卜辞」「貞ト文字」(占いの文字という意) など。
- ・ 青銅器などを威信財といい、それらは権威の象徴としてつくられた。
- ・ 「郡県制」・・・中国で初めての官僚による統治体制の誕生。

皇帝を頂点とする官僚のピラミッドによって支配した。
- ・ 秦 (chin) → ティーナイ (thinai) → 支那 (英語名チャイナの音訳) → チャイナ (china)
- ・ 「陳勝と呉広の反乱」

中国史上初の農民反乱。農民の税は収獲の 3 分の 2 とも言われている。
- ・ 度量衡の統一 度 (長さ)、量 (体積)、衡 (重さ)

度量衡標準器の表面に自分が全国を統一した業績を称えた詔勅を小篆で書かせ、
皇帝の権威を全国に広めようとした。
- ・ 西周金文→石鼓文→小篆

甲骨文字 追加 2

前辞の定型例

- ① 癸巳にトい争貞う。今一月雨ふるか。(前辞、貞辞)
② 癸巳にトい争貞う。今一月其れ雨ふらざるか。(前辞、貞辞)
③ 王占いみて曰う。丙に雨ふらんと。(占辞)
④ 旬壬寅、雨ふり、甲辰、亦た雨ふる。十日目と十三日目に
雨がふったことを記している。(驗辞)

筆順の原則

- 上から下・・・「工・土・羊・隹・子・目・小など」
左から右・・・「阜・耳・冫など」
右から左・・・「人・刀など」
外から内・・・「口・貞・日・丙・其・月など」
内から外・・・「木・牛・巾など」

